

横浜市立大学 大学院

国際マネジメント研究科

研究科案内

2024

ビジネスの
最先端を
リードする人材へ

公立大学法人 横浜市立大
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

YCU
横浜市立大学

ビジネスの最先端をリードする人材へ

近年のグローバル化による社会・経済活動の変化により、大学院は、新たな学問領域の創設や社会制度の変革の一翼を担う必要があります。

国際マネジメント研究科では、急速なグローバル化により、国際市場環境の直接的な影響を受けるようになった企業の環境に注目し、国際的な経済環境の変化を素早く合理的に分析し、的確な戦略を実行でき、企業の海外進出、特にアジアへの進出に重点を置き、本格的な海外展開を検討する企業およびこれらの企業を支援する組織に対して、国際的なマネジメントの知識、戦略およびセンスを備えた人材を育成します。

横浜市立大学沿革

明治	4年	仮病院設立	7年	文理学部を改組、国際文化学部・理学部設置	
	5年	横浜中病院開院。中病院を移転、横浜共立病院開院		横浜市立大学看護短期大学部設置	
	7年	十全医院に改称	8年	大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置	
	15年	横浜商法学校設立	9年	大学院経済学研究科(博士後期課程)設置	
	21年	横浜商業学校に改称		医学部附属高等看護学校廃止	
	24年	横浜市十全医院に改称	10年	大学院医学研究科(医科学専攻/修士課程)設置	
大正	6年	横浜市立横浜商業学校(Y校)に改称	12年	医学部附属浦舟病院を医学部附属市民総合医療センターに改称	
昭和	3年	横浜市横浜商業専門学校(Y専)設立	13年	大学院総合理学研究科(連携大学院/生体超分子システム科学専攻博士後期課程)設置	
	8年	横浜経済研究所設置		鶴見キャンパス設置	
	19年	横浜市立経済専門学校に改称	15年	大学院医学研究科(博士課程)再編	
		横浜市立医学専門学校設置	17年	公立大学法人横浜市立大学発足	
		横浜市立医学専門学校附属十全医院に改称		商学部・国際文化学部・理学部の3学部を統合、国際総合科学部設置	
	22年	旧制大学に昇格、横浜医科大学となる。		看護短期大学部募集停止。医学部に統合し医学部看護学科を設置	
	24年	新制大学として横浜市立大学設置(商学部)		経営学研究科、経済学研究科、理学研究科、国際文化研究科を統合、大学院国際総合科学研究科設置	
		横浜市立大学経済研究所に改称		教養部、経済研究所廃止	
		横浜医科大学病院に改称		公立大学法人横浜市立大学附属病院、公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センターとなる	
	27年	文理学部設置	20年	看護短期大学部廃止	
		横浜市立大学と統合、医学部設置	21年	大学院国際総合科学研究科再編、都市社会文化研究科、生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を設置	
	29年	横浜市立大学医学部病院に改称	22年	大学院医学研究科看護学専攻(修士課程)設置	
	36年	大学院医学研究科(博士課程)設置	25年	大学院生命医科学研究科設置	
	38年	教養部設置	30年	データサイエンス学部、大学院医学研究科看護学専攻(博士後期課程)設置	
	41年	市立高等看護学校/市立准看護学校開校	31年	国際総合科学部を再編し、国際教養学部、国際商学部、理学部を設置	
	45年	大学院経営学研究科(修士課程)、大学院経済学研究科(修士課程)設置	令和	2年	データサイエンス研究科設置
	46年	市立高等看護学校/市立准看護学校を再編、医学部附属高等看護学校に改称		5年	データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻(博士後期課程)設置
	59年	財団法人木原生物学研究所より移管され、木原生物学研究所設置			
平成	元年	大学院総合理学研究科(修士課程)設置			
	3年	大学院経営学研究科(博士後期課程)、大学院総合理学研究科(博士後期課程)設置			
		医学部附属病院、医学部附属浦舟病院開院			
	5年	大学院国際文化研究科(修士課程)設置			



研究科長からのメッセージ

研究科長 白石 小百合

2023年4月現在、日本では、新型コロナウイルス感染症対策重視の状況から一歩前進しました。そして今後、果たしてポストコロナ時代に完全移行できるかはまだ不透明ですが、米中対立など世界情勢や金融システムの不安定化、AI技術の進展など、これまで以上に社会経済の変化が予想されます。社会科学を教育し研究する国際マネジメント研究科としましては、いつも社会に眼を向けその変化に敏感でありたいと考えます。

先行きが不透明な現代社会の中で、国際マネジメント研究科は、国際ルールに精通し、これにより市場環境や制度の変化に対応していくスキルを身につけている人材、グローバル化の中で企業全体のクオリティを高めていける人材、および海外地域の産業集積を担っていける人材の養成を目的として2009年度に設置されました。また2016年度からは、海外からも注目される日本のサービス・ビジネスについて専門的な研究を実施できるようにサービス・サイエンス研究プログラムを開設し、グローバル化を進める企業などでサービスのスペシャリストとして活躍できる人材養成に取り組んでいます。

そして国際マネジメント研究科では、2021年度から、ソーシャル・イノベーション社会人MBAプログラム(SIMBA)を新設いたしました。このSIMBAプログラムの目的は、従来のサービス・サイエンス研究プログラムを発展させ、特に経営管理手法を用いて社会課題解決をめざす社会人を対象として、経営学・経済学の知識やスキルの習得を目指すことにあります。横浜市にも社会課題が多く表出する中、社会課題の領域には、一般的なビジネス課題とともに、ヘルス領域、社会福祉領域、その他の公共サービス領域など多数が考えられます。こうした課題解決のスキルを習得し国際社会で活躍する人材を育成します。

このように、本研究科は社会の要請に応じ、常にビジネスの最先端の諸課題に対応できる人材を輩出する教育・研究機関をめざしています。明確な研究課題を持ち、その課題解決のための旺盛な研究意欲を有するみなさんが、本研究科で研鑽を積み、ビジネスの最先端をリードする人材となることを期待しています。

教育・研究の特色

従来のマネジメント教育に加え、サービス・サイエンス研究プログラムを設置

企業の海外展開において必要となる知識や、既に海外展開を行っている企業が経営の停滞を打破するための問題解決方法を学ぶ国際マネジメント教育に加え、2016年度より近年海外から注目されているサービス・ビジネスを専門的かつ科学的に研究できるプログラムを設置しました。これらのカリキュラムを通じて、変化の激しいグローバル経済に対応する産業人材の育成を目指します。

産学連携教育プログラムの提供

経営の現場に生じている最先端の諸課題を研究テーマのフレームに盛り込ませることを可能にし、早くから現場における問題発見能力と経営センスを身につけた人材を育成するため、産学連携の一環として地元ビジネスリーダーを対象とした教育プログラムを企業と共催しています。こうした教育プログラムを履修することもでき、修了に必要な科目の単位として認定しています。

インターンシップ、フィールドワークの単位認定

実務を重視する立場から、海外展開を行っている企業や官公庁へのインターンシップや海外の市場調査または制度調査等のフィールドワークについても単位として認定しています。

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士（経営学または経済学）
博士後期課程	3名	博士（経営学または経済学）

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	以下の科目群から30単位以上の取得、および修士論文の審査を経て修了します。	
	研究指導(8単位以上)	修士論文作成に向けた研究指導を行う科目
	基礎科目(6単位以上)	マネジメント教育の前提となる基礎を固める科目
	応用科目(16単位以上)	研究の深化およびキャリアデザインに関連した科目
博士後期課程	以下の科目群から20単位以上の取得、および博士論文の審査を経て修了します。	
	特殊研究指導(12単位以上)	博士論文作成に向けた研究指導を行う科目
	専門応用科目(8単位以上)	各分野の専門性を深めるための講義科目

履修モデル(博士前期課程)

以下に典型的な履修モデルを示しておきます。(1)はサービス・サイエンス研究プログラムを修了する場合、(2)はソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合、(3)は両プログラムを履修せずに修了する場合のモデルです。これらの例を参考にして各自の研究目的にあわせて、研究指導員と充分相談の上、履修する科目を決めてください。

(1) サービス・サイエンス研究プログラムを修了する場合

学年	科目区分	科目名	単位数	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント	2	グローバル企業、シンクタンクの研究員、ITコンサルタント	
		マーケティング	2		
		数量分析研究	2		
	応用科目	サービス・サイエンス	2		【研究テーマの例】 製品メンテナンスにおけるサービス設計、コンビニエンスストアの業務プロセス改善
		ヘルスケア・マネジメント	2		
		ヘルス情報マネジメント	2		
		グローバル・オーガニゼーションズ	2		
		サービス起業論	2		
		研究指導Ⅰ・Ⅱ	4		
2年次	応用科目	サービス・マネジメント	2		
		公会計研究	2		
		消費者行動研究	2		
		研究指導Ⅲ・Ⅳ	4		

履修例2

進出国の企業会計のメカニズム、企業分析の手法と国際会計の知識を駆使して、資金調達と海外事業展開部門に会計サービスを提供できる人材の養成

学年	科目区分	科目名	単位数	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	国際財務会計	2	国際財務部門担当者、財務・会計コンサルタント、アナリスト、CFO	
		数量分析研究	2		
		ビジネス・マネジメント	2		
	応用科目	簿記システム研究	2		【研究テーマの例】 M&A実施後における収益性の分析
		会計方法論研究	2		
		財務会計理論研究	2		
		戦略管理会計研究	2		
		サービス・サイエンス	2		
		研究指導Ⅰ・Ⅱ	4		
2年次	応用科目	サービス・マネジメント	2		
		公会計研究	2		
		企業分析研究	2		
		研究指導Ⅲ・Ⅳ	4		

(2) ソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合

学年	科目区分	23年度 予定時間	科目名	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	集中(土)	ビジネス・マネジメント	病院・介護施設経営、政策立案者、コンサルタント、非営利組織	
		集中(土)	マーケティング		
		平日(夜)	数量分析研究		
	応用科目	集中(土)	ソーシャル・イノベーション		【研究テーマの例】 サービス利用者数予測を踏まえた病院リソースの最適配置
		集中(土)	大学院特殊講義f・g(医療イノベーション経営)		
		平日(夜)	大学院特殊講義n,o(医療経営分析)		
		集中(土)	ヘルス情報マネジメント		
		集中(土)	サービス・サイエンス		
		集中(土)	大学院特殊講義h,i(社会科学方法論)		
		平日(夜)	ヘルスケア・エコノミクス		
		研究指導Ⅰ・Ⅱ			
2年次	習得	集中(土)	サービス・マネジメントまたはヘルスケア・ポリシー		
			研究指導Ⅲ・Ⅳ		

履修例4 院生履修モデル

学年	科目区分	23年度 予定時間	科目名	【修了後の進路】	
1年次	基礎科目	平日	ビジネス・マネジメント	医療・福祉、国際非営利組織、地方・政府機関	
		平日	数量分析研究		
		平日	マーケティング		
	応用科目	集中(土)	ソーシャル・イノベーション		【研究テーマの例】 わが国におけるメディカル・ツーリズムの確立における課題と「おもてなし医療」の潜在的可能性
		集中(土)	大学院特殊講義f・g(医療イノベーション経営)		
		平日(夜)	大学院特殊講義n,o(医療経営分析)		
		集中(土)	ヘルス情報マネジメント		
		平日(夜)	公会計研究		
		平日	グローバル・サービス・マネジメント		
		平日	グローバル・マネジメント		
		平日	グローバル・ヒューマンリソース・ディベロップメント		
		平日	グローバル・オーガニゼーションズ		
		平日	戦略管理会計研究		
集中(土)	大学院特殊講義h,i(社会科学方法論)				
		研究指導Ⅰ・Ⅱ			
2年次	習得	集中(土)	サービス・マネジメントまたはヘルスケア・ポリシー		
			研究指導Ⅲ・Ⅳ		

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

履修モデル(博士前期課程)

(3) 両プログラムを履修せずに修了する場合

履修例5

在外子会社(支店)の販売管理、市場調査、社内の情報技術や財務に精通し、在外子会社(支店)の業務を統括して、グローバル・ビジネスを展開できる人材の育成

学年	科目区分	科目名	単位数
1年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント	2
		マーケティング	2
		数量分析研究	2
	応用科目	グローバル・マネジメント	2
		グローバル・ストラテジー	2
		ファイナンシャル・マネジメント	2
		ヘルス情報マネジメント	2
		グローバル・オーガニゼーションズ	2
研究指導I・II			4
2年次	応用科目	財務会計理論研究	2
		グローバル・ヒューマン・リソース・ディベロップメント	2
		大学院特殊講義	1
	大学院特殊講義	1	
研究指導III・IV			4

【修了後の進路】

在外子会社(支店)統括マネージャー、本社
在外子会社(支店)管理部門スタッフ、CIO

【研究テーマの例】

アジアにおける生産拠点の確立から販売拠点確立へむけた課題

履修例6

ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎に、統計データに基づいた市場分析が行えるアナリスト、費用対効果に基づいた事業運営が行える行政官を育成

学年	科目区分	科目名	単位数
1年次	基礎科目	ミクロ経済学研究	2
		マクロ経済学研究	2
		数量分析研究	2
	応用科目	経済政策研究	2
		財政学研究	2
		公共政策研究	2
		金融論研究	2
		国際貿易論研究	2
研究指導I・II			4
2年次	応用科目	国際金融論研究	2
		ゲーム理論研究	2
		大学院特殊講義	1
	大学院特殊講義	1	
研究指導III・IV			4

【修了後の進路】

金融機関の在外顧客支援担当者、シンクタンクの研究者、行政官

【研究テーマの例】

アジアの事業展開における資金調達と資本コスト

修了後の主な進路 2021~2022年度博士前期・後期課程修了者

【就職】

株式会社みずほフィナンシャルグループ	マエサワ税理士法人	株式会社日本経営
楽天株式会社	富士通株式会社	横浜市役所
株式会社NTTドコモ	みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社	国立大学法人一橋大学社会科学高等研究院
株式会社マイナビ	株式会社楽天野球団	株式会社浜銀総合研究所 など

修士論文テーマ例 2022年度修了者

- 住宅状況と中国居民幸福度の関係について実証分析
- 日本におけるSDGsの普及に対する、生活者の価値観・知識の影響
- 非財務指標を活用した将来業績の予測可能性
- 中国における増徴税の所得再分配に及ぼす効果分析
- 超低金利政策が中長期的な資産価格見通しに与えた影響
- The differences in style of learning organization between Japanese and Egyptian companies
- 病棟看護師による呼吸数測定ルーティン化を促進する要因分析
- 日本における金融政策の情報効果
- コワーキング・スペースにおける知識創造促進要因

国際マネジメント研究科

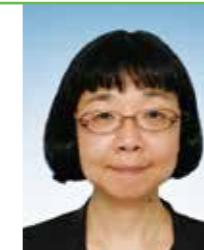
教員紹介

岩佐 朋子 准教授

IWASA Tomoko

【担当科目】

(博士前期課程)
イノベーションの経済学



■ 連絡先

E-mail: iwasa@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

英国サセックス大学 修士(国際経済学)
一橋大学経済学研究科博士後期課程 博士(経済学)
文部科学省科学技術政策研究所研究員として勤務
2004(平成16)年より現職

■ 研究テーマ

企業の行動や戦略について経済学の視点から研究を行っています。特に、競争力の源泉であるイノベーションの問題や、需要の縮小に伴う産業構造の変化の問題に取り組んでいます。

■ 研究指導方針

イノベーションに関わる諸問題を理解するために、経済学、経営学、統計学などの様々なアプローチが複合的に用いられる研究分野です。国内外で発表された先行研究をしっかりと踏まえた上で、現在起こっている応用問題に取り組んでいきます。

大澤 正俊 教授

OSAWA Masatoshi

【担当科目】

(博士前期課程) ビジネス法務研究
(博士後期課程) ビジネス法務特殊研究



■ 連絡先

E-mail: osawa@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 320

■ 経歴・研究活動等

1998(平成10)年 明治大学大学院 法学研究科 博士後期課程 満期退学
1998(平成10)年 横浜市立大学 商学部 専任講師
2009(平成21)年より横浜市立大学大学院 国際マネジメント研究科 教授

■ 研究テーマ

不動産の権利関係についての理論研究

■ 研究指導方針

『ビジネス法務』の研究領域は広範多岐にわたるので、個々の院生の研究目的に合わせた研究指導を行う予定です。

教員紹介

太田 塁 教授

OTA Rui

【担当科目】

(博士前期課程) 国際貿易論研究
(博士後期課程) 国際経済学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: rota@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 315

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学商学部卒業。同大学院経済学研究科を経て、Japan-IMF Scholarshipにより米国ジョーンズ・ホプキンス大学に留学、Ph.D. (Economics)。千葉経済大学を経て、2015年本学に赴任。2020年より現職。公刊論文: "Price Competition and Setup Cost," Mathematics 9(3) 2021年(共著)など。

■ 研究テーマ

専門は国際貿易論と産業組織論です。現在、下記のテーマで研究を行っています。

- ・製品の安全基準の違いが国際貿易市場における取引に与える影響
- ・衰退する需要に直面する企業の価格設定行動

■ 研究指導方針

先行研究を理解し、応用・発展できるよう、ミクロ・マクロ・計量経済学をまずはしっかり勉強してもらいます。

大塚 章弘 准教授

OTSUKA Akihiro

【担当科目】

(博士前期課程) 経済政策研究
(博士後期課程) 経済政策特殊研究



■ 連絡先

E-mail: otsuka@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

岡山大学大学院文化科学研究科修了。博士(経済学)。一般財団法人電力中央研究所を経て、2016(平成28)年より現職。

■ 研究テーマ

都市経済学と地域経済学に関する実証研究。持続可能な地域経済システムとエネルギーに関する経済分析を実施しています。

■ 研究指導方針

都市と地域の経済システムやメカニズムに興味を持つことが大切です。都市経済学と地域経済学の学術体系に則り、理論的検討を踏まえた実証研究を重視します。経済・産業データを収集し、研究仮説を立てて実証分析ができるよう指導します。

大坪 徹也 准教授

OTSUBO Tetsuya

【担当科目】

(博士前期課程) ヘルス情報マネジメント



■ 連絡先

E-mail: otsubo.tet.nn@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 332

■ 経歴・研究活動等

京都大学大学院医学研究科博士後期課程修了。博士(社会健康医学)。京都大学大学院医学研究科研究員、助教、京都大学医学部附属病院特定講師を経て、2023年本学に赴任。

■ 研究テーマ

ヘルスケア領域に係る経営・政策に資する根拠の創出と情報の利活用のあり方について研究します。

■ 研究指導方針

ヘルスケアに関するさまざまな情報をつくる、つかう、伝えることを通じて、諸課題の解決にアプローチする方策を研究する機会を提供します。

鞠 重鎬 教授

KOOK Joongho

【担当科目】

(博士前期課程) 財政学研究
(博士後期課程) 財政学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: kook@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 303

■ 経歴・研究活動等

一橋大学経済学研究科博士後期課程修了。博士号(経済学) 一橋大学経済学部助手として勤務。その後韓国租税財政研究院(国策研究機関)の研究委員を歴任。1999(平成11)年より本学に赴任

■ 研究テーマ

主な研究テーマは、「人的資本投資と租税政策」、「日韓の財政・租税体系の比較研究」、及び「地方税財政や政府間財政関係」に関する分野です。これらの研究テーマは、博士論文である『人的資本投資と租税政策の経済効果』(一橋大学)と、『韓国と日本の租税体系の特性に関する比較研究』(韓国の高麗大学)とに深く関わっていますが、最近では地方税財政の研究にも関心が深いです。

■ 研究指導方針

研究指導の際、念頭に入れるべきことは、学生の現在のレベルより「少し上(slightly more)」を目指すことだと思います。レベルが高すぎると興味がなくなりやすく、低すぎるとつまらないと感じやすくなるからです。この「少し上」を目指すことが研究指導方針です。

坂口 利裕 教授

SAKAGUCHI Toshihiro

【担当科目】

(博士前期課程) 数量分析研究
(博士後期課程) 経済学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: sakkun@yokohama-cu.ac.jp
研究室HP: <https://sakkun-cc.yokohama-cu.ac.jp/>

■ 経歴・研究活動等

1983(昭和58)年東京工業大学工学部社会工学科卒業。1985(昭和60)年東京工業大学理工学研究科社会工学専攻。修士課程修了(工学修士)。横浜市立大学商学部助手。1990(平成2)年横浜市立大学商学部専任講師。1994(平成6)年横浜市立大学商学部助教授。2005(平成17)年横浜市立大学国際総合科学部准教授。2013(平成25)年より現職

■ 研究テーマ

- 都市・社会問題のシステム分析・地理的情報の統合的活用/選挙区の最適区割/投票区の地域特性と投票行動
- 都市政策・都市経営の理論・環境影響評価/合意形成/地域・都市計画のモデル分析
- 意思決定支援システム・情報システム・都市計画・地域計画のための支援システム/社会システムのシミュレーションモデル/データ解析システム

■ 研究指導方針

ICTを活用した分析手法の修得と、問題解決のための政策・施策の提案が行なえる人材育成を目指して、社会的還元を意図した実証分析を目標に指導します。

柴田 典子 准教授

SHIBATA Noriko

【担当科目】

(博士前期課程) マーケティング
(博士後期課程) 経営学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: shiban@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 313

■ 経歴・研究活動等

学習院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学修士号(経営学)。2002(平成14)年より現職。

■ 研究テーマ

マーケティング論、消費者行動分析を専門とし、中でもブランド論を中心とした研究、ケーススタディを行っています。象徴的消費にかかわる研究、特に「消費者行動における自分らしさ、自己表現」を自らの研究テーマとして取り組んでいます。

■ 研究指導方針

実際のマーケティング事象に強い関心があることが重要です。そして、自分の問題意識を深掘りして研究テーマを設定し、理論と実証の両面からどのようにアプローチしていくのか、じっくりと考えていく姿勢が求められます。



教員紹介

白石 小百合 教授

SHIRAISHI Sayuri

【担当科目】

(博士前期課程) 数量分析研究
(博士後期課程) 計量経済学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: shira@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

上智大学外国語学部卒。慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得退学。博士(経済学)。社団法人日本経済研究センター、帝塚山大学を経て、2007(平成19)年より現職。

■ 研究テーマ

【行動経済学による幸福度研究、政策評価】

「あなたは全体的にみて幸せですか?」という問いを通して、人々の幸福感に対する個人の属性や社会的ネットワーク、政策の効果を研究しています。

■ 研究指導方針

実証分析を行うに当たり、現実の経済社会への関心を大切にします。計量経済学は経済学と統計学の双方を用いて分析することから、基礎的な積み重ねを重視します。

随 清遠 教授

SUI Qing-yuan

【担当科目】

(博士前期課程) 金融論研究
(博士後期課程) 金融論特殊研究



■ 連絡先

E-mail: usui@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 440

■ 経歴・研究活動等

経歴: 東京大学経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。東京都立大学助手を経て、1993(平成5)年4月より現職。
研究活動: 著書と論文: "Money and Government: A Study of China and Japan from a Historical Perspective", 2022, Springer.
「銀行の配当政策と不良債権処理」、『金融経済研究』2018年 vol.41, pp.19-39など。

■ 研究テーマ

金融政策と銀行の産業別貸出。異なる局面における株価予測。金融危機時の景気対策と健全性維持のトレードオフについて。

■ 研究指導方針

各自の研究テーマに即して関連研究の把握、理論モデルや分析ツールの理解、独自の分析と検証などを繰り返しながら、学術論文を作成してもらいます。

高橋 隆幸 教授

TAKAHASHI Takayuki

【担当科目】

(博士前期課程) 税務戦略研究
国際租税法研究
(博士後期課程) 会計学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: takahasi@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 334

■ 経歴・研究活動等

中央大学大学院商学研究科博士後期課程退学
修士号(商学)
税理士業を経て
2000(平成12)年より本学に赴任

■ 研究テーマ

租税法のうち、主に法人税・所得税といった所得課税を研究しています。租税が、納税者の行動・意思決定に与える影響の検証を試みています。

■ 研究指導方針

修士課程1年次には、主に海外の様々な研究論文を読んで頂き、問題意識を養い、研究テーマを設定して頂きます。テーマ決定後は、論文執筆まで個別に指導します。

張 櫻馨 教授

CHANG Ying-Hsin

【担当科目】

(博士前期課程) 国際財務会計
(博士後期課程) 会計学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: chang@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 338

■ 経歴・研究活動等

横浜市立大学商学部経営学科卒(学士(会計学))
横浜市立大学経営学研究科修士課程修了(修士(会計学))
横浜市立大学経営学研究科博士課程修了(博士(会計学))
2005(平成17)年 横浜市立大学准教授
2014(平成26)年 同教授

■ 研究テーマ

会計情報(日本、米国と国際財務報告基準)と経営者の情報開示戦略・投資家の行動との相互影響の解明を中心に研究を行っています。

■ 研究指導方針

研究活動を進めていくにあたって、必要な文書力、情報検索力、データ分析力とプレゼンテーション力の養成に重点を置き、指導を行います。

中園 善行 教授

NAKAZONO Yoshiyuki

【担当科目】

(博士前期課程) マクロ経済学研究
(博士後期課程) 経済学特殊研究



■ 連絡先

E-mail: nakazono@yokohama-cu.ac.jp

■ 経歴・研究活動等

経歴: 東京大学経済学部経済学科卒業。東京海上日動火災保険、早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員、早稲田大学大学院ファイナンス研究科助教を経て現職。博士(経済学)。
研究活動(公刊論文): "Strategic Behavior of Federal Open Market Committee Board Members: Evidence from Members' Forecasts," 2013, Journal of Economic Behavior & Organization, 93, pp.62-70.など。

■ 研究テーマ

専門はマクロ経済学です。経済主体が形成する期待と実体経済の相互依存関係に関心を持っています。

■ 研究指導方針

理論と実証のバランスの取れた研究指導を目指します。

中條 祐介 教授

NAKAJO Yusuke

【担当科目】

(博士前期課程) 企業分析研究
(博士後期課程) グローバル・アカウン
ティング特殊研究



■ 連絡先

E-mail: nakajoy@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 339

■ 経歴・研究活動等

1992(平成4)年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学、横浜市立大学専任講師、2004(平成16)年同教授、2014(平成26)年国際総合科学部長、2019(平成31)年副学長。現在、日本会計研究学会評議員、日本インベスター・リレーションズ学会副会長、日本経済会計学会副会長、日本ディスクロージャー研究学会会長、証券アナリスト検定試験委員

■ 研究テーマ

会計政策論を中心に研究しています。会計政策論は、会計基準設定を扱うマクロ会計政策論と、企業の会計方針選択を理論化するミクロ会計政策論があります。これらの会計政策と価値関連性に関する分析は、会計学研究の中心的領域となっています。

■ 研究指導方針

研究テーマの設定については、院生の自主性を重視します。設定された研究テーマについて60分程度の報告と、それに対する討議を繰り返し、学位論文を作成していきます。

長畑 周史 准教授

NAGAHATA Shushi

【担当科目】

(博士前期課程)
コーポレート・ガバナンス研究



■ 連絡先

E-mail: nagahata@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 336

■ 経歴・研究活動等

2008(平成20)年 慶應義塾大学大学院 法学研究科民事法
学専攻後期博士課程単位取得退学
2008(平成20)年 青森中央学院大学 経営法学部専任講師
2012(平成24)年より現職
2022(令和4)年4月~8月 プリティッシュコロンビア大学ロース
クールアジア法研究所客員教授

■ 研究テーマ

商法(主に会社法)が私の専門分野です。現在は、内部統制と組織のガバナンスについて研究しています。

■ 研究指導方針

経営学や経済学に共通する諸問題を法学的視点から検討します。受講者は法学部出身でないことを前提に、これまでの学習内容に法学的視点を取り入れ、さらに発展させられるように指導を行います。

教員紹介

中村 祐太 准教授

NAKAMURA Yuta



【担当科目】
(博士前期課程)ゲーム理論

■ 連絡先

E-mail: y_naka@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 316

■ 経歴・研究活動等

慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程修了。博士(経済学)。
慶應義塾大学経済学部助教を経て、2020年より現職。

■ 研究テーマ

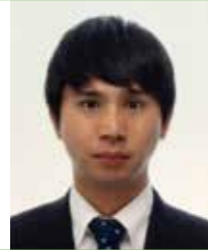
メカニズムデザイン/マーケットデザインというゲーム理論の応用分野を専門とし、オークションルールや選挙制度の設計に取り組んでいます。最近、ブロックチェーン上の制度設計にも関心があり、これまでの学知をうまく活用できないか模索しています。

■ 研究指導方針

経済理論の研究には数学的知識はもちろんのこと、定理の証明をクリアに書く能力が必須となります。したがって、修士課程1年次には数学と経済理論の基礎を学んでもらい、2年次以降は海外の先端論文を読み進め興味のあるテーマを各自で設定してもらいます。

原 広司 准教授

HARA Koji



【担当科目】
(博士前期課程)ソーシャル・イノベーション

■ 連絡先

E-mail: hara.koji.vv@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 311

■ 経歴・研究活動等

大阪市立大学商学部卒。大阪市立大学大学院経営学研究科博士前期課程修了(経営学修士)後、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野にて博士後期課程修了(社会健康医学博士)。京都大学を経て、2021(令和3)年より現職。

■ 研究テーマ

医療経営、医療経済・政策に関する研究を中心に、介護や健康全般を対象とした研究も行っています。とくに、患者満足度およびQOLの測定と評価、組織文化、医療資源の地域差に関する実証研究に取り組んでいます。

■ 研究指導方針

医療と経営学の融合を目指し、医療の特殊性を考慮に入れたうえで医療分野への経営学の知見の応用、発展を意図した研究を行っています。

根本 裕太郎 准教授

NEMOTO Yutaro



【担当科目】
(博士前期課程)サービス・サイエンス
サービス・マネジメント

■ 連絡先

E-mail: nemoto.yut.wa@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 324

■ 経歴・研究活動等

首都大学東京大学院システムデザイン研究科博士後期課程修了。博士(工学)。学位取得後、日本電気株式会社、東京都立産業技術研究センターを経て、2022年9月より現職。サービス学会理事、日本機械学会設計工学・システム部門運営委員。

■ 研究テーマ

専門はサービス学、デザイン学です。社会科学的アプローチと工学的アプローチの両輪で、次のようなテーマを研究しています。ウェルビーイング志向のサービスやデザイン方法論に関する研究/サービス組織におけるテクノロジー活用に関する研究/製造業のサービスビジネスに関する研究。

■ 研究指導方針

サービス学は雑食な学問であり、様々な分野の知識を繋いでいくことで見えてくるものがあります。領域横断的な文献調査を通じて、各々が独自の知識ネットワークを構成し、密度の高い議論を展開できるよう指導します。研究指導もまたサービスであるため、その本質である価値共創を意識し、一緒に成果を創り上げていきたいと考えています。

藤崎 晴彦 准教授

FUJISAKI Haruhiko



【担当科目】
(博士前期課程)
戦略管理会計研究

■ 連絡先

E-mail: fujisaki@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 330

■ 経歴・研究活動等

早稲田大学商学部卒。早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学(商学修士)。横浜市立大学商学部講師、助教授を経て2005(平成17)年より現職

■ 研究テーマ

戦略的管理会計
現代企業経営に即した管理会計システムがどうあるべきか、主に戦略マネジメントシステムの観点から分析します。特に、1990年代以降のコストマネジメントシステムである活動基準原価計算(ABC)ならびに業績管理システムであるバランス・スコアカード(BSC)適用に伴う組織文化への影響を考察します。

■ 研究指導方針

学生自らが問題発見、問題解決できるよう、先行研究の精読を行うとともに、学部生とともにを行う企業訪問や工場見学といったフィールドワークも取り入れた指導を行います。

三浦 敬 教授

MIURA Takashi



【担当科目】
(博士前期課程)簿記システム研究
(博士後期課程)財務会計特殊研究

■ 連絡先

E-mail: takashim@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 340

■ 経歴・研究活動等

1985(昭和60)年3月横浜市立大学商学部卒業。1987(昭和62)年3月横浜市立大学大学院経営学研究科修士課程修了(経営学修士)。1991(平成3)年3月一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得満期退学。(主要著書)『会計ディスクロージャーの新機軸』(共編著)(東京経済情報出版)、『財務会計論講義』(共編著)(東京経済情報出版)、『検定簿記講義2級商業簿記』(共著)(中央経済社)

■ 研究テーマ

- (1) 自主的会計ディスクロージャーの効果の分析
- (2) 国際財務報告基準がわが国の会計実務に与える影響の分析
- (3) 会計ディスクロージャーにおける会計情報と非会計情報の役割

■ 研究指導方針

博士前期課程および博士後期課程ともに研究者の養成を研究指導の主眼としています。そのため博士前期課程では、研究のための基礎力の養成を目標に据え、博士後期課程では大学や研究機関で第一線の研究を進める上で不可欠な様々な能力の習得を目指します。

和田 淳一郎 教授

WADA Junichiro



【担当科目】
(博士前期課程)公共政策研究
(博士後期課程)経済学特殊研究

■ 連絡先

E-mail: wada@yokohama-cu.ac.jp
HP: http://juniwada.in.coocan.jp/

■ 経歴・研究活動等

一橋大学経済学部、同経済学研究科を経て、ロータリー財団の奨学金により米国メリーランド大学に留学。Ph.D.1997年開設の本学経済学研究科博士後期課程設置にあたっての文部省による教員審査においてDマル合判定。博士号授与者の中には、中国深圳大学、福島学院大学などの専任教員もおります。現在、公共選択学会会長、計量・数理政治学研究会幹事。

■ 研究テーマ

公共選択論。主として選挙制度の研究

■ 研究指導方針

公共部門に関わる現実的な政策課題にも対応しますが、オヤジ談義に堕ちないためにも、経済学のディシプリン、数理、計量分析をきちんと身につけることを要求します。

吉永 崇史 教授

YOSHINAGA Takashi



【担当科目】
(博士前期課程)グローバル・オーガニゼーションズ
(博士後期課程)グローバル・オーガニゼーションズ
特殊研究

■ 連絡先

E-mail: tyoshina@yokohama-cu.ac.jp
文科系研究棟 319

■ 経歴・研究活動等

青山学院大学国際政治経済学部卒業。中央三井信託銀行株式会社での勤務を経て、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了。博士(知識科学)。北陸先端科学技術大学院大学科学技術開発戦略センター研究員、富山大学学生支援センター特命准教授を経て、2013(平成25年)に着任。

■ 研究テーマ

多様性を志向する経営組織と、組織活性化のためのコミュニケーションについて、ナレッジ・マネジメント(知識経営)やナラティブ(物語)・アプローチの観点から、質的研究手法に基づき研究を行っています。

■ 研究指導方針

学生自らの問題意識に基づきリサーチ・クエスチョンの設定プロセスを重視します。その上で、先行研究レビュー、適切な研究方法(データ収集・分析方法)の選択、調査計画立案・実施、調査結果の考察、論文執筆について、対話を積み重ねながら指導を行います。

在学生からのメッセージ

国際マネジメント専攻 博士前期課程1年
横浜市立大学 国際商学部卒

ほんだ りゅうじ
本田 龍司

学部2年次より継続して指導を受けるために、5年一貫プログラム(※)で進学しました。研究指導や様々な講義で先生方と学生の距離が近く、興味深い議論ができます。また、自身の専門以外の領域へも関心を高め、理解を深めながら自分なりの研究に集中して取り組んでいます。

研究テーマは「障害のある従業員と関わるマネジャーや支援者が行うマネジメントや支援」です。アンケート調査などの定量的な研究が主流な中で、定性的な研究も同様に重要であることを様々な講義で学び、私自身は質的調査を用いて研究しています。卒業論文からより発展した研究をするために、メソッドロジーへの理解を深める学習も合わせて行っています。国内に留まらない貢献ができる研究を意識して、テーマ設定や全体の構成を考え、英語による論文の執筆も進めています。

博士前期課程を修了後は、国際マネジメント研究科の博士後期課程への進学を目指しています。障害者雇用に関する研究を出発点として、国内に留まらない貢献ができる研究者になりたいです。

※学部4年次から大学院科目を履修し、1年間で修士の学位を取得できるプログラム



国際マネジメント専攻 博士前期課程2年
横浜市立大学 国際総合科学部卒

あさか ゆづき
浅香 柚月

医療分野などの社会課題をデータで示し伝える力を鍛錬できる、SIMBAプログラムに強い魅力を感じ入学しました。講義では、知識や技能の獲得だけでなく、医療関係の受講生など多様な人々との交流の機会を得ることができます。自身の専攻である経済学の専門性の向上に加え、分野を超えて視野の拡張を図れたと感じています。

現在の研究テーマは「横浜市立大学生に向けた献血促進ナッジの研究」です。ナッジとは、金銭や直接的な強制力などを用いることなく、人々をより良い方向へ導く手段のことであり、行動経済学において注目されています。学内での実験結果を、少子高齢社会における慢性的な血液不足の解決や若年層にとってのボランティアのあり方といった社会全体の課題へと一般化し、さらに検証を重ねたいです。

国際マネジメント研究科は少人数制のため、先生方からの手厚いサポートが受けられます。また、分野を超えて横断的に学ぶ方法があるのも、深みのある研究活動に直結する大きな魅力です。この研究科案内を見て、少しでも興味を持っていただければ嬉しいです。



2022年度 時間割

前期							後期						
月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土	
1	ビジネス・マネジメント					経済政策研究	1						
2							2		公共政策研究			Economic Analysis I	
3		研究指導 I				グローバル・サービス・マネジメント	3		研究指導 II			Economic Analysis II	
4		グローバル・マネジメント	マーケティング				4						経済学原理 II
5							5						
6	数量分析研究						6						
7	数量分析研究						7						

2022年度 時間割

前期							後期						
月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土	
1							1						
2			研究指導 I				2			研究指導 II		ミクロ経済学研究	
3		公会計研究				ビジネス・マネジメント or ソーシャル・イノベーション	3						
4			ゲーム理論研究				4		数量分析研究				
5							5			ヘルスケア・マネジメント			
6			医療経営分析				6						
7							7						



国際マネジメント専攻 博士前期課程2年
山東農業大学 経済管理学部卒

りゅう ゆいじえ
LIU YUJIE

私は、学習や研究を通し、課題発見力と解決する力を身につけたいと思い、YCUへの進学を決めました。

研究テーマは、『部門を越えたトランザクティブ・メモリー・システム(TMS)を形成しやすい組織についての研究』です。外部環境が急激に変化している現代社会では、部門間の連携および知識・情報の共有という「横のつながり」が要求され、従業員が他部門の人の専門分野を知らなければ、事務の調整やコミュニケーションが難しくなります。組織内で有効な知識・情報を迅速に入手または伝達するために、部門を越えたTMSの形成が一つの解決策だと想定されます。そこで、どのような組織が部門を越えたTMSを実現しやすいかについて研究しています。

横浜市立大学は病院を有しているため、医療経営やヘルスケアに関する授業を履修したり、一部の集中講義で病院の先生方とディスカッションしたりと貴重な経験ができます。また、留学生と日本人学生がチームを組んで課題解決に向けてワークショップをする機会が多いことも魅力的だと思います。

2022年度 時間割

前期							後期						
月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土	
1	ビジネス・マネジメント			数量分析研究			1						
2					ファイナンシャル・マネジメント		2						サービス企業論
3		研究指導 I			eビジネス・マネジメント		3		研究指導 II				グローバル・サービス・マネジメント*
4		グローバル・マネジメント	マーケティング				4			消費者行動研究			グローバル・サービス・マネジメント*
5							5			ヘルスケア・マネジメント			
6							6						
7							7						

*大学院特殊講義h1(社会科学方法論)



国際マネジメント専攻 博士後期課程2年
横浜市立大学 国際総合科学部卒

たんご けんと
丹後 健人

横浜市立大学の研究環境が充実している部分に惹かれ、博士課程に進学しました。私の研究テーマは、マクロ経済学の一分野である消費についてです。マクロ経済学は一国の経済活動を対象としていますが、分析するデータは家計レベルや企業レベルの粒度の細かく大規模なデータを活用することが増えています。ビッグデータと呼ばれる大規模な民間の家計簿調査を活用し、経済学の標準的な消費理論と実証的な発見が整合的かどうかを分析しています。

国際マネジメント研究科は興味・関心があるテーマをとことん追求できる環境ですので、大学という静かな世界で研究に没頭できるよう楽しんでいただきたいと思います。

また、卒業後については大学への就職を目標としています。研究活動を続けていだけでなく、研究の楽しさや奥深さ、私が先生方から教えていただいた、たくさんのことを少しでも伝えていきたいと考えています。

2022年度 時間割

前期							後期						
月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土	
1						特殊指導研究 I	1			ワークショップ(経済) I		特殊指導研究 II	
2							2						
3							3						
4			金融論特殊研究			経済学特殊研究(A)	4						
5							5						
6							6						
7							7						

YCU

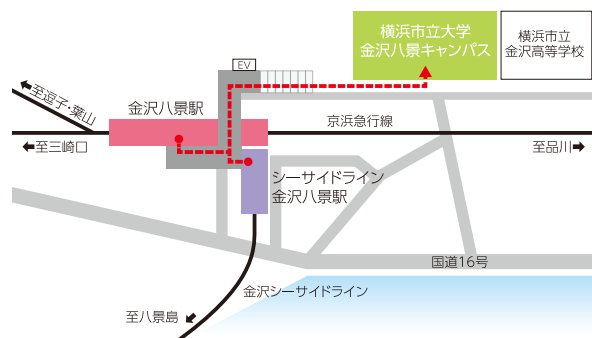
横浜市立大学



横浜市立大学 大学院
国際マネジメント研究科

金沢八景キャンパス

京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」下車徒歩5分



横浜市立大学

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057 https://www.yokohama-cu.ac.jp/int_manage/



@yokoichi



YCU_koho



yokohama_city_university



YokohamaCityUniv



[編集・発行]
横浜市立大学アドミッションズセンター